

# た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺  
〒197-0821  
東京都あきる野市小川101  
電話 042-558-2663



## 明けましておめでとう おめでとうございます

素晴らしい年でありますよう祈念しております

### 宝清寺の年中行事

|        |           |
|--------|-----------|
| 二月節分   | 厄除け・星祭    |
| 三月彼岸中日 | 彼岸塔婆供養    |
| 四月八日   | 花まつり(灌仏会) |
| 四月八日   | オリエンテンプリン |
| 七月十七日  | お盆塔婆供養    |
| 七月十七日  | 施餓鬼法要     |
| 九月彼岸中日 | 彼岸塔婆供養    |
| 十月十二日  | お云式法要     |
| 十二月初旬  | お父金締札     |

と受け取り、今年一年の安泰をお祈り致します。

日蓮聖人は、信者である重須殿女房(おもんすどの)の「お正月の心配りが、お餅百枚とお菓子を「供養されたこと」のお礼のお手紙を残されていますので紹介致します。

年始に行われる仏教行事に「修正会」があります。正月に修する大法会という意味で、奈良時代、寺院で「五穀豊穡」「国家安泰」の祈願をしたのが始まりです。この修正会の中心になるのが悔過行事で、特に吉祥天女の悔過が多く行われました。悔過は、過ぎたる罪を悔いる意味ですが、汚れを祓う意に解され、年の初めに身を浄めることとして修されてきました。

正月元日は一年の始まりにあたり、あらためて仏様やご先祖の精霊をお迎えし、今年一年の加護を祈る日でもあります。したがって、正月は家族一同が揃って迎えるべき行事ですが、本来の意義が忘れられてきているようです。昔は農耕民族として収穫を祈る「ころから行われてきた行事ですが、今日では「無事に日々をおくる」ことができず「と、仏や神に祈る行事

## 住職ひと口法話 第七十五回

『豊かな日本社会で「心を病む人」が増えている』ことが指摘されています。私たちは自分の欲望を簡単に満足させられる、かつてないほどの便利な世界にいます。

一方で人間関係が希薄になったため、心のつながりが感じられなくなったり、押し寄せる情報に翻弄され、自分が何を求めているのか、分からなくなっている人も多いと思います。私たちは、目の前で起きている現実を受け止めることが苦手になっていないでしょうか。自然とともに生きていた数千年前ならば、雨が降れば狩りを休み、太陽が沈めば寝る支度をするなど、自然の摂理に従って生きていたことでしょう。文明が発達しても、まだスマホがなかった昭和の時代には、人と会うにもよほどきちんと段取りを決めておかなければなりません。それが急に世の中が便利になり、「環境が欲望を吸収してくれる」時代になりました。

『物の豊かさを幸福と錯覚する』『世の中の乱れが起る』

『正月の一日は、日のはじめ、月の始め、年のはじめ、春の始め。これをもてなす人は、月の西より東をさして満つがごとく、日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく、徳もまさり、人にも愛せられ候なり。』

そもそも地獄と仏とはいづれのところに候ぞとたづね候えば、あるいは地の下、と申す経もあり、あるいは西方などと申す経も候。しかれども委細にたづね候えば、我等が五尺の身の内に候とみえて候。さもやおぼえ候ことは、我等が心の内に父をあなづり母をおろそかにする人は、地獄その人の心の内に候。たとえば、蓮のたねの中に花と菓との見ゆるがごとし。仏と申すことも、我等の心の内におわします。たと

とも、最近よく言われていることです。現代の私たちの生活は恵まれ過ぎていよう思っています。衣・食・住の全てにおいて、パートやスーパー、コンビニなどの店内に所狭しと並べられた商品に購買意欲も高まりがちです。しかし、物の豊かさに幸福を感じる人の欲望には限りがありません。本来自分が主体となつて使うはずの物に自分が振り回されるのは愚かなことだと思えます。物に愛着を持ち生かして使い、そこに便利さと喜びを感じる豊かな心が大切だと思えます。

また、日本の封建社会において、伝統的に行われてきた制裁の一種に「村八分」がありました。これは、村の決定事項に違反した者や家族に対し、交際を絶ち、孤立させる行為ですが、「村八分」の「八分」とは、「冠・婚礼・出産・病氣・建築・水害・年忌・旅行」を意味し、十分ある交際のうち、二分以外は付き合わないとのけ者にするので、非人情な制裁だと誤解する人がありますが、残りの「二分」は「葬式」「世話」「火事」「消火活動」は手伝わった、情のある制裁制度なのです。

目の前で起きている現実を受け止めることが難しいほど混乱した時代、豊かな心を持ち、情を大切にしたいものです。

えび、石の中に火あり、珠の中に財あるがごとし。我等凡夫は、まつげの近きと虚空の遠きとは見候ことなし。我等が心の内に仏はおわしましけるを、知り候わざりけるぞ。ただし疑いあることは、我等は父母の精血変じて人となりて候えば、三毒の根本、淫欲の源なり。いかでか仏はわたらせ給うべきと疑い候えども、また打ち返し打ち返し案じ候えば、そのいわれもや、とおぼえ候。

蓮は清きもの、泥よりいでたり。せんだんは香ばしきもの、大地より生いたり。さくらはおもしろきもの、木の中より咲きいづ。楊貴妃はみめよきもの、下女の腹より生まれたり。月は山よりいでて、山をてらす。わざわいは口より出でて、身をやぶる。さいわいは心よりいでて、我をかざる。

いま正月の始めに法華経を供養しまいらせんとおぼしめす御心は、木より花の咲き、池より蓮のつぼみ、雪山のせんだんのひらけ、月の始めて出るなるべし。

いま日本国の、法華経をかたきとしてわざわいを千里の外よりまねき寄せぬ。これをもつて思うに、いま法華経を信ずる人はさいわいを万里の外よりあつむべし。

影は体より生ずるもの、法華経をかたきとする人の国は、法華経を信ずる人は、せんだんに香ばしさのそなえたるがごとし。またまた申し候べし。

正月三日

日蓮花押

をもんすどのの女房 御返事

日蓮聖人は「このお手紙で」「お正月の心配りができる人は徳もまさり、人からも愛される。そもそも地獄も仏も我が身の中にある。お正月の始めに法華経を供養しようとする心は素晴らしい。今、日本は法華経を信じて幸せを四方から集めるだろう。法華経を信じる人は、香り高いせんだんの木に、更に、良い香りを加えるようなものである」と説いています。

年末年始にお墓参りに行く人が多い理由としては、帰省があげられます。普段遠方ではなかなか墓参りもできない人の帰省は、お墓参りの絶好の機会でもあります。

本来お正月は「年神様」とご先祖の霊をお迎えするという意味合いがあります。「年神様」とは「豊穡と繁栄をつかさどる神様」です。「ご先祖様」は、「子孫を見守ってください」存在です。

喪中のお正月では、初詣やお正月飾りなどを慎む習慣がありますが、喪中に初詣を慎むのは、聖域である神社に穢れを持ち込んではいけないという理由からです。仏教ではお墓は死者が眠る場所であり、「ご先祖様に会いに行く」と考えられています。

# 法華経と私たち

## 随喜功德品 第十八

そのとき弥勒菩薩は、釈尊に「世尊よ、もし人あつて法華経を聞いて随喜すれば、その人にどのくらいのご利益がありますか」と問うた。

釈尊は「阿逸多よ、わたしの入滅のちに、男女の僧及び在家のものたち、知恵のあるもの、年長者や幼きものが、この経を聞き終わって、随喜して聞いたことを、たとえ僧坊で、都で、村落で、父母に、親戚に、友人に、自分の力に依じて法を説けば、それを聞いた人は、また、他所に行つて随喜して法を説く、こうして順番に五十回に及んだとしよう。阿逸多よ、この五十番目の人が随喜して聞いた功德を教えよう。

今、四十万阿僧祇の世界があり、その中に六種、すなわち、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上界に衆生があり、四生、すなわち、卵生、胎生、湿生、化生のものがある。あらゆる種類の衆生のある

## 第十九回

して得る功德は、限りなく大きいのである。まして、最初に聞いて随喜したものの功德にいたつては、比べようもなく大きい。

人が、功德を積むことを求めて、好みにしたがつて、あらゆる衆生の一人一人にこの世にある様々な宝玉、象や馬車、七宝を与えたとしよう。この大いなる施主は、このような布施を続けて八十年に及び「衆生の好みに依じて布施をしてきたが、齢八十を過ぎて、みな老衰し、死が近くなつた。今後は仏法でこれらの衆生を導こう」と思い、大施主は教化し、瞬間にことごとくの衆生をして阿羅漢果を得させしめた。お前はこの大施主の功德をどう思うか」弥勒は釈尊に答えた「世尊よ、衆生に好みのものを施すだけでも、その功德は限りないものではないでしょうか。まして、阿羅漢果に導いたのですから」

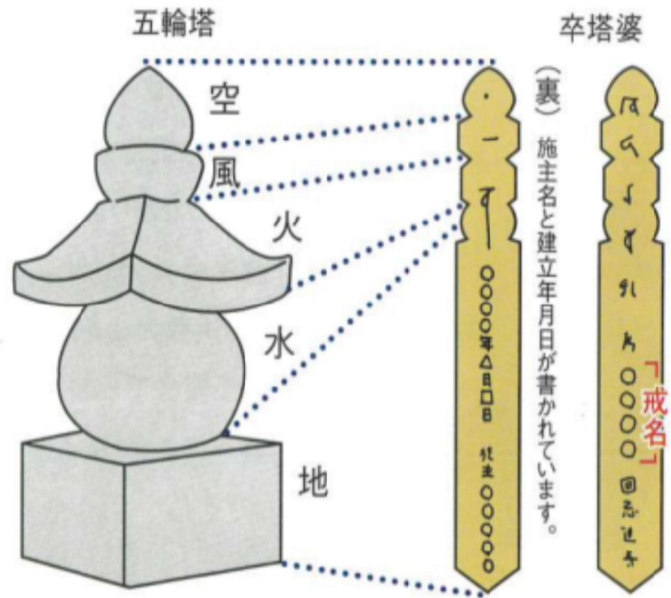
釈尊は弥勒に告げた。「わたしは今、はつきり言おう。この大施主の功德は、五十番目の人が随喜して聞いた功德に及ばないだろう。阿逸多よ、この五十人の人々がめぐりめぐつて法華経を聞いて随喜

## 卒塔婆供養の大切さについて

近年、親を亡くされ「お寺のことは親がしていたので、全く分からないので教えて欲しい」と相談される方が多く、中でも「卒塔婆って何ですか、塔婆はあげなければいけないのですか、何本あげたら良いのですか」など、質問される機会が増えました。

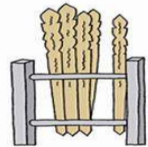
そこで塔婆供養について、法事やお盆・お彼岸に卒塔婆を立てるようになった由来、そして、書かれている意味など解説いたします。

卒塔婆には、墨でお題目と戒名と聖句と建立日が書かれています。卒塔婆はもともと、古代インドの言葉でストウパーという言葉、音訳したものです。ストウパーとは、仏塔とも訳され、お釈迦様の遺骨を納めた塔のことをいいます。お釈迦様が入滅すると、遺骨が八つに分けられ、八つの国に遺骨を安置するための塔が建てられたのです。後には、高僧が亡くなった際にもストウパーを建てるようになりました。



ストウパーは、もともと腕を伏せたような形をしていましたが、仏教が中国を経て日本に渡つてくる間に、時代をおつて、色々な形に変化しました。日本のお寺でよく見られる五重塔や五輪塔（上図参照）も、元をたどればストウパーです。

卒塔婆は、五輪塔の形が元になつてきました。この形には、仏教の世界観が表現されています。一番下の四角形は「地」を表しています。その上の円形は「水」を、その上の三角は「火」を、その上の半円形は「風」を表しています。



そして、一番上の宝珠形は「空」を表しています。仏教は「地・水・火・風・空」の五つの要素がこの世界を構成していると考えているのです。そして、人間もこの五つの要素によって、生かされているのです。法華経に「塔を建てて供養すべし」とありますが、簡単に仏舎利塔や五重塔を建てることはできません。そこで、上記図のように、五輪の塔に模した卒塔婆を建てて功德の一端とするのです。

尚、「ご不明な点がございましたら、管理寺務所までお問い合わせ下さい。」

## 令和六年度管理料納入のお願い

管理料は、毎年、三月末日が納入期限の前納制になっていきます。令和六年度の管理料の納期が近づいてきました。令和五年度の管理料及び複数年未納の方は、早めにお納め頂きますようお願い致します。

### 納入方法

- 一 墓参の折、持参にて納める
- 二 銀行振り込みにて納める

※振り込みの場合の振込先

銀行名 多摩信用金庫 秋川支店  
口座番号 普通預金 一五一六二四九  
受取人 宗教法人宝清寺代表役員 石井 前琮

### 三 自動払い込みにて納める

※自動払い込みの場合の手続き方法

- ① 自動払い込みはゆうちょ銀行のみです。ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方が対象になります。
- ② 自動払い込みご希望の場合は、管理寺務所に指定用紙をご請求頂き必要事項記入後、最寄りのゆうちょ銀行に提出して下さい。
- ③ 引き落としは、毎年四月二十五日になります。